

議事概要

会議名:岡山県におけるエイズ施策モニタリングに関する会議

日時:2025年10月20日(月) 14:00~15:30

場所:岡山市保健福祉会館3階会議室

出席者:藤田副参事(岡山県疾病感染症対策課)

齋藤技師(同上)

土井主幹(岡山市感染症対策課)

宮本保健師(同上)

河合保健師(同上)

兒玉医療副専門監(同上)

平賀(九州大学泌尿器科)

白阪(エイズ予防財団理事長)

古川(野木病院麻酔科・泌尿器科)

【会議目的】

- ・ 岡山県及び岡山市における動向調査報告と施策情報等のモニタリング
- ・ 岡山地域のエイズ施策に関する意見交換

【確認事項】

- ・ 本研究班の調査協力への了解の意思を県、市ともに確認
- ・ 本日使用の調査票記載データは仮のもので、追って公表可能なものを当班に送るとのこと
- ・ 本会議開催ののちに引き続いて今年度末の2月もしくは3月に福岡市で西日本地区重点都道府県会議への参加協力の了解

【冒頭あいさつ(平賀より)】

- ・ 今年度末(令和7年度末)までに新指針が策定される
- ・ 旧指針では「T as P」が掲載され、新指針では「U=U」が新たな理念として掲

議事概要

載されるもよう

- ・ それらの理念のもと、啓発や検査相談を行うにおいては郵送検査の実装や予防薬投与(PrEP)の整備が、医療においては治療長期化に伴う長期療養の課題克服が今後課題となるだろう。
- ・ 当研究班では、各地域の動向や課題を横断的にモニタリングすることで、指針の指摘する課題や各地域の課題克服に資することを目的とし、本会議を開催する。

【議論内容】

○ 岡山県の検査状況及びモニタリングの報告

- ・ 報告内容は重点都道府県等調査票を参照(別添)
- ・ この3年間において動向の上の大きな変化はないが、梅毒は岡山県においても増加傾向にあり注意が必要
- ・ HIV治療のメインはエイズ治療中核拠点病院である川崎医科大学附属病院。
- ・ 夜間・即日検査の需要を踏まえアクセス改善を進める
- ・ 郵送検査の実施によりさらに検査ニーズの実態を把握できるため、今後郵送検査には注力したい

○ 岡山市の検査状況及びモニタリングの報告

- ・ 市の動向は県が触れたとおり
- ・ 県の推進策を市も推進している
- ・ 青少年への啓発として団体向けのエイズ・性感染症出前講座を年間80講座ほど実施し、需要が高いため、今後も研修会の拡充と県市の連携体制を維持強化していきたい
- ・ MSM対応は岡山県・市、倉敷市と協力して行うようにしている
- ・ 最近外国人の検査利用が増加しており、言語対応や予約運用等に課題がある
- ・ 2022年から肝炎も匿名での検査を受け入れており、HIVの郵送検査の実施は検討中
- ・ 梅毒は全国的にも猛威を振るっており県も市も危惧している。おおまかには

議事概要

報告者数が以前は数十人だったのが 2024 年は 300 人以上となっており、岡山県の梅毒新規発生者数(人口 100 万あたり)は日本で 3 番目に多いとの不名誉な状態となっている

- ・ HIV 検査は希望があれば梅毒やその他性感染症検査も含めて行っており、受検者において、男性は風俗利用者が多く、女性はセックスワーカーが多い印象
- ・ HIV と梅毒とで新規報告者数の動向が解離しており、それぞれのハイリスクグループは違うものと考えられる。梅毒感染者の内訳はおおまかには 2/3 が男性、1/3 が女性
- ・ 梅毒と関連づけての HIV 普及啓発を今後も強化していく

○ 他の議論内容

- ・ 保健所やクリニック等の地域で HIV 陽性と分かれば拠点病院に案内する流れは他地域と同様
- ・ 検査件数がコロナ前水準と比較し未回復である。また、採血業務に不慣れな若手保健師が業務を担当することが多く、検査体制に負荷がかかっている状態
- ・ 郵送検査について、陽性判明時に医療機関に繋がれるかが課題の一つ。もう少し受検者の利便性に考慮した体制の手引きを国に示していただきたい
- ・ 郵送検査に添付する案内文書に保健所窓口案内を追記する予定である
- ・ 他の自治体から得た郵送検査キットで他の自治体保健所に相談があっても人道的に相談を受け入れることになるだろう(匿名受検のため居住地について保健所は原則把握しない)。
- ・ 通常検査では他の自治体保健所に相談があっても対応している。郵送検査の対応ルールについては検討中
- ・ 郵送検査で陽性と出た患者が保健所を経ずに医療機関を受診した場合に検査キットを持参しただけでは選定療養費を取られているかもしれない。
- ・ 郵送検査で陽性と出た患者が保健所を経ずに医療機関を受診した場合の選定療養費について必要時確認が必要だが、県委託事業の利用により、受検者の自己負担は多くて 1,000 円となる
- ・ 梅毒検査における国庫補助金はキットの送付に係る費用が含まれている

議事概要

が、HIV 郵送検査の補助金では含まれておらず、転売対策として返送料を個人負担することが挙げられている。受検者には負担が発生して申し込みが抑制的になるし HIV 検査と梅毒検査で適応が異なることは県事務手続きが煩雑となるため、見直しを図っていただきたい

- ・ 高齢陽性者の施設受け入れ拒否事例が認められている
- ・ 拠点病院外での診療時(訪問診療等)に自立支援医療未適用により患者の負担増となり、拠点病院に戻る事例も指摘されている
- ・ HIV 陽性者の受け入れを推奨させる観点で歯科医師会への啓発を行っており、淋菌咽頭感染の広がりを啓発する意味でも歯科医師会との連携は有意義と考える
- ・ 予防指針改正に合わせた啓発資料の活用・展開を考慮に入れている
- ・ 12月の世界エイズデーのときは標語があるが6月の検査普及キャンペーンのときは標語がないので厚労省に作ってほしい
- ・ 白阪理事長より「Zero project」について簡単に説明され、次年度のエイズ学会が岡山で開催されることも報告され、県市で予定の啓発イベントを学会と協力して開催することも検討可能と説明